

【ねがいましては】

平成20年10月26日

KYOWA SCHOOL

第216号

「飛べない小鳥たち」

「羨ましいくらいみんなまじめに向かっているよね。」「はい、いいなー。」最近中3の子たちが夕方のそろばん授業を手伝ってくれます。彼女たちと交わす言葉です。授業中、当たり前のように私から飛び出ることば、「精一杯やっていたら100点だよ。」「君、間違えようとして間違えたわけじゃないだろ、だったら一生懸命にやっていたことには変わりがないのだから100点。」

ちゃんと全員に聞こえるように言います。それぞれが皆、真剣なまなざしで向かっています。中には目が点になったまま全く集中できない子もいます。のぞいてみると学校からの宿題をしています。思うこと、やはりやらされる勉強はやりたくないよなー、でも仕方がないんだよな。

最近よく使うようになった言葉がけ、「インタビューです。何題やりますか？」実は1年生、2年生くらいの子たちの自発性を高めるために、自分で自分の行う量を決めてもらうのです。「・・・2だい。」恥ずかしそうにこたえます。(えー、じぶんできめていいの。)と、けっこううれしそうな表情です。

勉強は命令形が当然と決めつけている子たちは、そんな私の言葉がけに驚いているようです。本当であればザワザワとした気の散ったような雰囲気が漂ってもおかしくはないのですが、シーンとして皆集中しています。

「こんな雰囲気、中学校じゃ味わえないよね。」お手伝いの中学生も羨望のまなざしを浮かべながら子どもたちの横に寄り添い教えます。「1はお父さんゆびだよ。はい、そうだね。」

このような雰囲気が出来上がってきたのは、まだ他にも要因があります。『比べない』ということです。比較されることについては、子どもたちは飽き飽きしています。学校で、テストで比較され、家に帰るとその結果を見たお母さんから、ダメ押しのことばを言われ、止めの一発として、「○○ちゃんは・・・だってよ、お母さん、○○ちゃんが本当の子だったら良かったわ・・・。」「・・・。」まさに止めの一発です。

成績を上げるということについては、『競わせる』という行為が当たり前な方法として使われてきました。

私たちの小学校時代もそうであったため、違和感がありません。しかし第三者的に子どもたちを眺めていると、やはり苦しんでいるのだなと感じてしまいます。

この競わせる方法は、スポーツでは極当たり前かもしれません。しかし競うという行為は、副産物を生み出します。『競っている相手に対し、敬いの心をもたなくなる。』ということです。まだまだ未熟な子どものころ、勝てばそれで良いという単純な心理を生み出します。自然に人の心を想うということから離れていきます。本来あるべき勉強の姿は、夢中になって『知りたい、やりたい』という前向きな心を土台に、時間を忘れて取り組むということではないでしょうか。と、書きながらお母さま方の一番のご希望である『成績向上』に取り組んでいる自分にも矛盾を感じます。普段使用している教材は学校専用が主体のものですから・・・。

最近見えてきたことは、『子どもたちは皆、仲良く助け合いながら生活したがつている。』ということです。

先日聞いたことがありました。「人はどうやって生きていくことが一番大切な?」「ハーイ、なかよくすること。」「助け合うこと。」2年生がはっきり言ってのけた言葉です。

その反面、他人にころを廻らすということについては、まだまだ未成熟ですから、となりの子の心や家族の心を思うことについては浅いまです。人として当たり前発生する『欲の達成』については、ストレートに出てしまうことがあります。『ウソ』です。ばれなければいいという単純な発想です。子どもたちの使う『うそ』、それは自己を満足させるためだけのものです。その行為が、たとえばなくても、事実として自分の人生の歴史に一生刻まれることや、ご家族の方々がどれだけ苦しまれるかということをしつかりと学ばなければなりません。競わせるという行為は、微妙にこのような部分にも影響しているような気がいたします。

そのようなことが起こった場合、私は叱るという行為とは別に、説くように話します。ころの勉強です。

思いやりやさしさの育みは、家族からスタートします。仲の良い家族は皆ほのぼのとしており、表情も穏やかです。そこで育まれた愛情を持って学校や放課後、友だちとふれあい、やがて成人し社会で多くの方々に接し、社会貢献へと繋がります。それが本来の『仕事』と呼ばれる行為であるはずで。

助け合う勉強、勉強に困った子がいれば助けてあげる。うまく教えられるかなという不安から、今まで以上に集中する自分がいます。人は皆、自分のことより人のことになると真剣です。それだけ献身的になることに喜びを感じる生き物なのですね。それがあたりまえ『ひと』の姿だと思います。競わされる勉強ばかりしていると、なにか煮え切らない悶々とした気持ちを覚えるのはそのせいかもしれません。

先日もMちゃんがそろばんの授業の前に来てくれました。準備の手伝いをし、そろばんを手伝い、そして2年生の子を家まで送り届け、薬の買い物までしてくれました。その後少し気分が優れないと帰宅しました。本来の中学生クラスの勉強をせずに・・・。Sちゃんは学童保育クラブへ雨の中、お迎えに行ってくれました。慈愛に満ちたそれらの行動は私の心を十分に温めてくれました。ころからありがとう。